

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

「現代の医療について思うこと」

慈光照護のもと、門信徒の皆さまにはますますご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存じあげます。

私たちはこの地球上に生きる生き物は、いずれは死んでいかねばならない身を生きています。『生老病死』、『諸行無常』と、理屈ではわかっているつもりでも、いざ病を得て死が目前に迫ってきたときに、冷静に受け止められることができない人はそういないと思います。私の京都伝道院時代の恩師で広島県の福岡義朝先生と現代の医療について話をしたことがあります。例によってお酒を飲みながらの話でしたが、見事に意見が一致したのでそのことを書いておきたいと思います。

以前に書いたことと重複しますが、前住職が白血病になったとき、福井大学医学部では『すぐに首からカテーテルを入れて抗がん剤の投与を始める』と言われました。治療中は無菌室での闘病生活になるとも言われました。担当医に詳しく聞いてみると、そんな治

永代経にお参りください。

6月18日(月) ヒル2時・ヨル7時

療をしても抗がん剤が効果がある可能性は

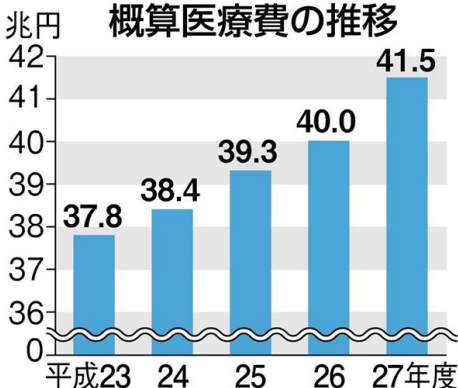
およそ二〜三割。辛い治療をしても七割はまったく効果がないというのです。そしてたとえ効果があつたとしても、入院を繰り返しながら一年から一年半の余命だと聞かされました。担当医に数日の猶予をもらい、家族で話しあうとともに、お父様が前住職の同級生であるかかりつけ医の先生に意見を聞きました。先生は「うちの父がこうなっても絶対に抗がん剤治療はしません」と断言なさいました。その言葉に後押しされ、厳しいことですが前住職を説得して抗がん剤治療をやめました。当然福井大学に入院することとはできず、宮崎病院にお願いして入院させていただきました。その結果、なにもしなければ一〜二ヶ月と言われた通りになつたわけです。後で振り返ってみたときに、辛い治療に堪えて生きる時間を少しだけ延ばすより、いのち終える直前まで生活の質をあまり落とさずに過ごせて良かったと思います。

現代医療にとって『死は敗北』です。しかし、死なないように全力を尽くすことが最善の医療なのでしょうか。そうではないと思

います。地球上の生き物は、子孫を残すことでゆるやかに環境の変化に適応し、地球の環境が変わつても『種』として生き延びることができるよう進化してきました。そうやって隕石の衝突にも氷河期にも生命は生きのびてきたのです。そのような中で『私』という『個体』だけが生き続けるわけにはいかないのです。

日本の医療・介護にかかる費用をみてもまさにうなぎ登りです。このままでは立ち行かなくなることは明らかです。若い方の病気はできることなら治ってほしいし可能性を探ってほしいとは思いますが、ある程度の年齢（これまたいくつとは言えずたいへん難しいことですが……）になつたら、高度な先進医療や、生活の質を下げたり、苦痛をとまなう手術などはやめ

概算医療費の推移



兆円

て、静かに最後の時を待つ、また、最大限苦痛をやらわらげる処置をするという医療を選択することもできるようにしないといけないと思います。

こんなことを書くと、「あなたはまだ若いからそんなことを言うけど、実際に歳をとつたらそんなこと言つてられん」とおつしやる方も多いのではないかと思います。私は前住職と違つておかげさまでまだ大きな病気も怪我もしたことがありません。だからもうすぐ死ぬかもしれないと本当に感じたことがないのかもしれない。何度もお葬式を拝読させていただき、「今日ともしらず明日ともしらず」と聞かされていても、我が身のことは受け止めていないのかもしれない。しかし、今の私はそんな心持ちではありません。

宗教は『死ぬのが怖くなくなること』じゃないのかと言う人がいます。もちろんそれだけではありませんが、私たち浄土真宗のおみ法をいただく者は、『死にゆく身』であることをしっかりと受け止め、死んで終わりではない『浄土』という世界に往き生まれていくと聞いていくことで、結果的に死も怖くなくなるのだらうと思います。

明治・大正に活躍した歌人・評論家の大町桂月のお母さんは熱心な念仏者で、東京

帝国大学出身の桂月さんは「なまんだぶ」と念仏ばかり称えているお母さんを馬鹿にしていたそうです。しかし、お母さんが病を得て亡くなる時、「なまんだぶ、いざさらば、如来のお膝元へ」と言つて笑つて亡くなつていかれたのを見て、初めてお念仏の、阿弥陀さまの有り難さを知つたと書かれています。私もこのお母さんのように笑つて死んでいくのが目標です。

「永代経・本納骨のご案内」

日	14時〜	19時〜
18日(月)	速夜 佛説無量寿経 四十八願 法話二席	初夜 新制 佛説観無量寿経 法話一席
	本納骨法要	

ご法話 本願寺布教使 奥田 順誓師です。

例年のように、当院の永代経法要を勤めさせていただきます。ご門徒のみなさまのご先祖さまをご縁とした法要です。どうかみなさまお誘い合わせお参りください。

私が怠惰なせいでこの寺報も御仏供米(御膳米)の袋もたいへん遅くなつてしまいました。本当に申し訳ありません。三國のご門徒さまには袋を入れてありますので、急

ぎませんのでお備えしてくださる方はお寺にお持ちいただくか、遅れてもいいので月参りの時にお預かりします。

また、七回忌を過ぎて当山納骨堂にご安置してありますご遺骨の本納骨法要を、お速夜の永代経法要の後に執り行います。関係のご門徒さまにはご案内を同封してあります。ご覧ください。

「花まつりが行われました」

去る五月六日(日)にお釈迦さまの誕生日を祝う花まつりが智敬寺さまにて開催されました。お参りくださったみなさん、子供さんを連れてきてくださったみなさん、そして、奉賛懇志をしてくださったみなさん、本当に有り難うございました。この場を借りてお礼申し上げます。なお、前号でお知らせした勝山の明覚寺さまの結婚式も無事終えることができました。大役を終えてホッとしました。ご門徒さまの結婚式もどうぞ仏式で！ご連絡お待ちしております。

※来寺のお約束や、お参りの変更など、重要なことは必ず住職の携帯にご連絡下さい。出られない場合は留守電に入れてください。

住職携帯 090-8667-7902

メール soichiro4989@gmail.com

ブログ 西光寺で最高時！